

# 防災週間(8月30日～9月5日)

9月1日は防災の日、9月9日は救急の日です。もしもの時に備え、非常食や水、ラジオ、懐中電灯などを用意しておきましょう。

また、お子さまにも火事や地震が起こったらどのように行動すべきか、煙を吸わずに逃げる方法や地震の時は机の下に隠れるなど、日頃から繰り返し話し、緊急時に備えるようにしましょう。

おうちの中にも事故やけがを招く危険な物がたくさんあります。事故を防ぐために、確認をしてみましょう。

- ・子どもの手の届く場所に置いてはいけない物  
(薬、洗剤、たばこ、ライター、ポット、炊飯器、包丁などの刃物、針、子どもが飲み込める大きさの細かい物など)
- ・踏み台になる物はベランダに置かない
- ・コンセントなどをいたずらできないようにする
- ・遊び食べに注意する(食べ物が喉に詰まることがある)
- ・浴室には子ども1人で勝手に入れないよう工夫する



## 救急箱の中身、チェックしてますか?

救急箱の中身に決まりはありません。普段使うものを、清潔な入れ物に入れておけばOKです。ただし、滅菌ガーゼや薬は使用期限がありますし、テープ類は古くなると粘着力が弱くなります。1年に1回は中身をチェックしましょう。

CHECK!

### 絆創膏

けがをした部位に合わせて選べるよう、形やサイズをいくつか用意しておくとう便利。



### はさみ

救急箱専用にしておくとう衛生的で安心です。



### 体温計



### ガーゼと医療用テープ

傷口を保護したり、薬を塗った上にかぶせたりして使います。個包装の滅菌タイプが使いやすいでしょう。



### 毛抜きやピンセット

皮膚に刺さったとげを抜いたりするのに使います。



### 常備薬

(虫よけ、かゆみ止め、化のう止めなど)



## 子どもの事故を防ぐヒントは「ヒヤッと」にあり!

子どもがけがをしそうで「ヒヤッとした」ときこそ、次の事故を防ぐチャンスです。「無事でよかった」とすませるのではなく、なぜヒヤッとしたのかを見直しましょう。

### 1 「ダメ!」「危ない!」は“そこが危険”のサイン

子どもをしかって制止するよりも、ものの置き場所をかえるなど、子どもが安全に過ごせるよう環境を整えましょう。



### 2 一度あれば二度、二度あることは三度ある

危ないと思ったら、必ず理由や経緯を考えましょう。原因がわかれば対策がとれます。対策をしないと、大きな事故につながる危険がそのままに。



### 3 大人もいっしょにやってみる

子どもが過ごす場所が安全かどうか、子どもの目の高さでチェックしてみましょう。遊具やおもちゃは、いっしょに遊んで正しい使い方を示します。



## 子育て通信

発行 こども支援課 こども支援係  
Tel43-6111(内線1261)

# にこにこ



R6.8.28

203号

月号

子育て通信「にこにこ」は、胎内市ホームページからもご覧いただけます

QRコード



## 赤ちゃんふれあい教室



8月23日(金)に赤ちゃんふれあい教室を開催しました。教室に参加した中学生が、赤ちゃんを抱っこさせてもらい、一緒にふれあい遊びをしたり、お母さんから妊娠・出産・子育てについての思いやお子さんの名前の由来などを聞いたり、とても貴重な時間を過ごしました。最初は緊張した様子の中学生でしたが、赤ちゃんの可愛らしいしぐさに、思わず笑顔になっていました。

参加した中学生からは「赤ちゃんが生まれてくるのは奇跡なので、これからは自分の命も大切にしていきたいと思う」「育児は大変なことも多いけど、お母さんたちが幸せそうだった」などの声が聞かれました。また、赤ちゃんのママからは「お兄さん、お姉さんに抱っこされて、娘もニコニコ♪私も嬉しかった」「中学生の皆さんにもこういう時期があったこと、今まで親御さんに大切に育てられてきたことを感じてもらえたらと思う」などの声が聞かれました。